

SONY

ソニーが（テレビで）、はじめた未来。

"BRAVIA" Evaluation Room fact 02
Tokyo, Japan



For the Next Generation
地球の未来を、グリーンに。ソニーのエコロジー

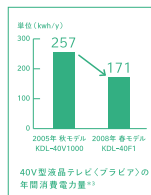
〈ブラビア〉は、細部にまで省エネ技術を結集し、
使用時のCO₂の排出量を約33%削減(当社比)^{*}しました。

*1: 2005年発売KDL-40V1000と2008年発売KDL-40F1との比較

美しい画面の中には、数々の省エネ技術が詰まっています

ソニーの製品の中で、使用時にもっともCO₂を排出しているのはテレビ。だからこそ、テレビの省エネ化はソニーにとって、もっとも大きな課題なのです。しかし、画質を向上させながら、消費電力を抑えていくのはたやすいことではありません。〈ブラビア〉の新モデルでは、実にさまざまな技術を積み重ねることで消費電力の削減に挑戦しています。たとえば、部屋の明るさに応じて画面の輝度を自動調整する「明るさセンサー」など多くの省エネ機能の搭載や、パネルモジュールの高効率化など細かな部品に至るまで省エネを図り、2005年に発売した〈ブラビア〉と比べてCO₂の排出量を約33%削減^{*}。省エネ性能5つ星の評価^{**}を受けています。より美しい画質を追求しながら、消費電力を抑えるために。今日も、私たちは試行錯誤を繰り返しています。

*2: 省エネ法に定められた2008年度基準に対する評価



10年以上前からの取り組みが、自社循環による部品の再生を実現

〈ブラビア〉の新モデルでは、CO₂の排出量を製造段階でも減らすことに成功しました。ソニーは10年以上前から再利用を考えた環境配慮設計を推進。使い終わったソニーのテレビからの異物除去や解体がしやすくなり、部品の再生が容易になりました。また、テレビに使用されるプラスチック部品の難燃性ポリスチレンは、これまで再利用が難しいとされていた材料。このためソニーでは衝撃に強く、燃えにくい再生ポリスチレン材料を精製する技術を新たに開発しました。新規材料の使用量を削減するとともに、新材を使用する場合と比較してCO₂の排出量を約30%も削減。CO₂を減らすための取り組みに、まだまだ終わりはありません。10年以上前からはじめた環境配慮設計が、いま省資源につながっているように。ソニーのつくる未来が、はじまっています。

*3: 省エネ法に基づいて、型サイズや受信機の種類別算定式により、一般家庭での平均視聴時間を基準に算出した、一年間に使用する電力量です
"BRAVIA"は、ソニー株式会社の商標です



ソニーはWWF(世界自然保護基金)が推進するクライメイト・セイバーズ・プログラムに参加し、CO₂をはじめとする温室効果ガスの排出量を絶対量で減らす目標を掲げて、第三者機関の検証のもとに実施しています。

www.sony.co.jp/eco